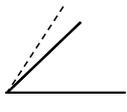
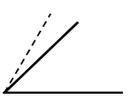
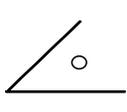
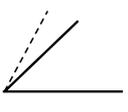
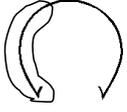
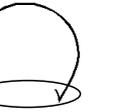
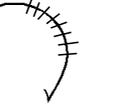
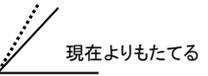
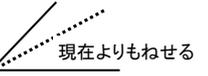
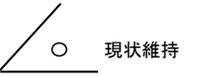


## 第68回全国装蹄競技大会装蹄判断模範解答

肢 別	前 肢				後 肢							
肢 勢	前望	外向 肢勢				後望	狭踏兼外向肢勢					
	側望	後踏肢勢 集合				側望	前踏肢勢					
蹄 形	左	外向蹄	不同蹄	大きさ 左>右		左	外向蹄	不同蹄	大きさ 右>左			
	右	外向蹄		蹄角度 左<右		右	外向蹄		蹄角度 右<左			
步 様	外弧歩様			先着部位 左	外蹄尖～外蹄側		内弧歩様			先着部位 左	外蹄尖～外蹄側	
				右	外蹄側					右	外蹄尖～外蹄側	
疾 病 損 徴	左	球節(球腱)軟腫・負縁裂(内蹄側)				左	蹄尖壁異常摩滅・交突痕・飛節軟腫 ・球節(球腱)軟腫・管前面外傷痕					
	右	球節(球腱)軟腫・拳踵狭窄(内側踵)・負縁裂(内蹄尖)・不正蹄輪・蹄壁欠損(内蹄側)				右	蹄尖壁異常摩滅・交突痕・飛節軟腫 ・球節(球腱)軟腫・蹄壁欠損(内蹄側)・裂蹄(外蹄側)					
多 削 部 位	多削部位			蹄角度の適否		多削部位			蹄角度の適否			
	左	外	内			左	外	内				
			内			外	右	内			外	
							右	内	外			
<p><b>装蹄の方針</b></p> <p>●左右蹄いずれも球節(球腱)軟腫に留意すると共に、左蹄では外蹄側から内蹄側負面まで多削し、蹄角度を起こすとともに内外バランスを整え、上弯を多めに設け反回の良い化を図る。</p> <p>●右蹄では、狭窄に対処するため、蹄支角を削開し内側刺縁を多めに設ける。</p> <p>●左右蹄とも、負縁裂部は鑢等を用いてその部を滑らかにし、悪化予防に努める。</p> <p>●左蹄では鑢削により蹄の縦径の延長を防ぐ。</p> <p>●後肢は、交突防止に配慮して、内側の適合を狭めにし、内側鉄枝外面を下狭に調整する。</p> <p>●飛節軟腫や球腱軟腫に留意し、蹄尖負面を多削し、蹄角度の増大に努めるとともに、外蹄側を多削して内外バランスに注意して悪化を予防する。</p> <p>●蹄尖壁摩滅に対処するため、左右いずれも大きめの鉄頭鉄唇を設け、摩滅部を保護する。</p> <p>●右蹄の蹄壁欠損部は鑢等を用いてその部を滑らかにし、悪化予防に努める。</p> <p>●裂蹄部は、蹄壁表面を薄削すると共に、必要に応じてエクイロックスや革片接着により、悪化防止の処置を施す。</p>												
記 載 要 領	① 多削部位は原則として下記の記載例に基づいて表現すること。											
											平 	
	一側多削		蹄尖多削		両蹄踵多削		一側蹄踵多削		蹄壁鑢削		現状維持	
② 蹄角度の適否は下記の記載例に基づいて表現すること。												
									現状維持			
現在よりもたてる			現在よりもねせる			現状維持						
③ 「装蹄の方針」欄には、この馬の判断結果を総合して、重点事項を記載する。箇条書きを基本とする。												